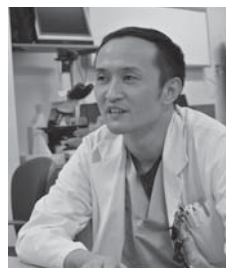


鼠径ヘルニア(脱腸)について

城山病院 消化器外科 藤井研介医師

鼠径ヘルニアは子どもの病気と思われがちだが、成人にも多く、全国で1か月に1万人の治療が行われているというデータもある。症状が進むと飛び出た部分が根本で締め付けられ、元に戻らなくなる嵌頓(かんとん)になり、緊急手術をしなければならぬ危険な疾患だ。藤井医師に鼠径ヘルニアについて話を聞いた。



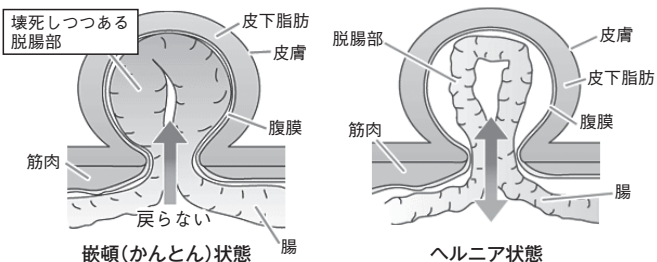
日本外科学会専門医
マンモグラフィ読影認定医師
緩和ケア研修会修了

症状について

鼠径部とは太もものつけねの部分のことで、ここには鼠径管という直径1cmほどの穴があります。これは男性では睾丸に行く血管や精管が、女性では子宮を支えるじん帯が通っています。この穴の周囲の筋肉が弱まり、ここからお腹の中の腹膜や腸の一部が皮膚の下に袋状(ヘルニア囊)に出てくる疾患です。

このヘルニア囊は一度できるとなくなり、お腹に力を入れるとお腹の中の組織が囊の中に出てくるようになります。

初期症状は、足の付け根にこぶのような柔



手術は大きく分けて、前方アプローチと腹腔鏡手術の2つの方法があります。どちらも医療シートを使ってヘルニアを修復し、ヘルニア門を補強します。

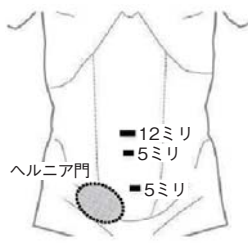
手術

検査と治療

検査はまず触診、そしてCT検査を行います。治療は外科的手術しかありません。「痛くもないし、指で押すと戻るから」と言って治療を受けずに放置し、ある日、当然、嵌頓になり救急車で運び込まれる患者さんを何人も見てきました。「早くに手術をしておけばよかった」と後悔しても遅いのです。

鼠径ヘルニアと診断された時点で治療対象です。

前方アプローチは鼠径部を4〜5cm切開して行います。腹腔鏡手術はお腹に5〜12mmの穴を3か所開けてそこから腹腔鏡を挿入して行います。



現在は腹腔鏡手術も一般的で、当院でも腹腔鏡手術TEP法を行っています。TEP法は視野が狭いので高度な技術が必要ですが、腹膜などの膜組織を傷つけずにヘルニアを修復でき、外からはわからない不顕性ヘルニアも同時に治療ができます。また、身体的にも負担が少なく早期の社会復帰が可能です。手術は3泊4日もしくは4泊5日で行います。

第8回市民公開講座

寝たきりにならないための脳卒中予防

講師 脳・脊髄・神経センター 副センター長
島野 裕史 医師

12月24日(木)14時~15時

城山病院 1階エントランスホール
参加無料